

編集後記

雑誌名	樟蔭国文学
巻	56
ページ	101-101
発行年	2020-03-01
URL	http://id.nii.ac.jp/1072/00004436/

編集後記

昨年の六月六日に国文学科の大先輩である田辺聖子さんがお亡くなりになった。田辺さんは、国文学科の前身である樟蔭女子専門学校の国文科の卒業生であり、文学的業績を称えるべく平成十九年に設置された田辺聖子文学館では、田辺さんのすべての作品を展示し、田辺さんに関する企画展も随時行なってきた。また、田辺聖子ジュニア文学賞は今年度で十二回を迎えるが、全国各地の中高生からの応募があり、田辺人気が未だ衰えを知らぬことを証明している。国文学科においても、田辺さんを学科の目指すべき女性像としてとらえ、作品や業績を勉強するといった自校教育の授業の中で、お手本にさせていただいている。慎んでご冥福をお祈りしたい。

『樟蔭国文学』は今回の五十六号より、電子媒体のみの発行とすることになった。学術雑誌の電子化、リポジトリ化は時代の流れでもあるが、本号の体裁に関しては従来のレイアウトのままおこなっている。今後は、大阪樟蔭女子大学リポジトリでご利用いただきたくお願いする次第である。未掲載の号がまだあるが、次年度の早いうちに過去に遡り掲載していく予定である。

本号は、古典芸能関連の論文一件、近代文学の論文二件、授業報告一件、そして創作作品一件とバラエティに富んだ内容になっている。「あせごのまん」こと、奈良崎英穂准教授の作品は、今年度のラグビーワールドカップ日本大会の盛り上がりを受けたタイムリーな作品であるが、決してさわやかな青春ものではなく、日本ラグビーの泥臭さが全編に漂っており、奈良崎流ユーモアに満ち溢れた作品である。元ラグビー部の私は、四〇年前のあの頃にタイムスリップしたような錯覚に陥ってしまった。改めて「あせごのまん」のファンになった次第である。みなさんも、ぜひご一読いただきたい。

(国文学科長 田原広史)